

## 審査結果の要旨

報告番号	甲 第 1322 号	氏名	孫 佳慧
審査担当者	主査	田原 宣広	(印)
	副主査	島村 拓司	(印)
	副主査	赤木 由人	(印)
主論文題目：Trends in the Prevalence of Cancer in Cardiovascular Diseases: A Single Center Retrospective Study, 2011-2018 (循環器疾患におけるガンの年次頻度の推移：単一施設での後向き検討：2011-2018)			

### 審査結果の要旨 (意見)

癌患者が増加を続ける一方で、化学療法を中心とした癌治療の進歩は著しく、今や癌は不治の病ではなく、治癒が期待できる、あるいは共に生きていく時代となっている。癌と循環器疾患との関わりは、古くから指摘されてきたが、癌患者の中に循環器疾患がどのくらいの割合で存在するかは明らかではなかった。本研究は、循環器疾患の患者にどのような癌が併存し、その罹患率の経年変化を示している。循環器入院患者 11,093 人のうち 992 人 (8.9%) の患者が癌を併発しており、経年的に増加傾向を示した。大腸癌、前立腺癌、肝細胞癌、肺癌、胃癌の順で高い罹患率を示した。癌との併存率が最も高いのは冠動脈疾患であり、食生活、喫煙、肥満、糖尿病などの併存疾患が共通の危険因子となっている可能性が考えられた。それら危険因子に対する治療介入により癌の罹患が減少する可能性が期待され、今後の研究課題である。肝細胞癌の罹患率が減少していることについては、B 型・C 型肝炎による肝細胞癌の患者数の減少による影響と推察される。しかしながら、非アルコール性脂肪肝炎による肝細胞癌が増加してくることが危惧されており、癌や循環器疾患の予防のためには生活習慣や肥満の是正が重要であることが示唆される。

### 論文要旨

癌治療の進歩により、癌の予後が改善してきており、癌サバイバーが循環器疾患を合併することが大きな懸念となってきた。本研究では、久留米大学病院心臓・血管内科のデータベースを用いて、循環器疾患に癌を併発する頻度、どの循環器疾患にどの癌を併発するか、を後ろ向きに検討した。2011 年 4 月から 2019 年 3 月までに久留米大学心臓・血管内科に入院した 11,093 名全ての患者を対象とした。入院患者 11,093 人のうち 992 人の循環器疾患患者 (8.94%) が癌を併発していた。癌疾患の罹患率で最も多かったのが大腸癌、前立腺癌、肝細胞癌、肺癌、そして胃癌であった。有意差はなかったが、2011 年 4 月から 2019 年 3 月にかけて乳癌の合併頻度が上昇傾向にあった。経年変化として、全ての循環器疾患患者において、前立腺癌、肺癌、子宮癌の合併頻度が上昇傾向にあったが、肝細胞癌と舌癌の合併頻度は減少傾向であった。癌合併循環器疾患患者の絶対数は、全ての循環器疾患、冠動脈疾患、心不全、不整脈、および肺高血圧症で増加していた。本研究により、循環器疾患患者の癌合併頻度は約 10% であり、経年的に増加傾向を示すことが明らかとなった。したがって、癌は循環器疾患を治療する上で、大きなインパクトがあることが示唆された。